

出没が多くなる時期です

STOP! クマ被害



問い合わせ 環境課生活環境室 ☎ 53 - 2111 (内線 3310) 記事ID 0055339

近年、ツキノワグマの目撃件数や人身被害が多く報告されています。秋を迎え、クマは、冬眠に備えて食欲が増す「飽食期」に入り、多くの餌を求めて行動が活発になります。人とクマの距離が近くなるこの時期、被害に遭わないように注意しましょう。

クマは人が嫌い

ツキノワグマは本来、人を避ける動物で、人は「怖い」存在です。人から見れば、農作物や人身の被害などのトラブルを起こすもとも危険な動物ですが、広大な森林生態系を保つ重要な構成種でもあります。本来の生息域は森林で、これまでは山奥から人の生活圏に近い里山に降りてくることはほとんどありませんでした。

なぜ近年、目撃情報や人身被害が多発しているのでしょうか。

生息域と社会環境の変化

ツキノワグマは、落葉広葉樹林のあるところを生息地にしています。秋は、そこに生育するブナやコナラ、ミズナラなどの実（どんぐり）を餌とし、森林はツキノワグマにとって非常に重要な場所となっています。このどんぐりが不作の年は食物を求めて行動範囲が広くなり、本来の生息地を離れ、人里

に近づくことがあります。

また、生息域の状況変化のほか、中山間地域の社会環境変化も、出没を増加させる要因となっています。

かつて里山などの山林は人手によって管理されてきましたが、近年は過疎化や高齢化に伴い、人の活動が低下し、管理が行き届かない山林「隠れ場所」が増えたことにより、人里近くまでツキノワグマの行動範囲が広がってきました。

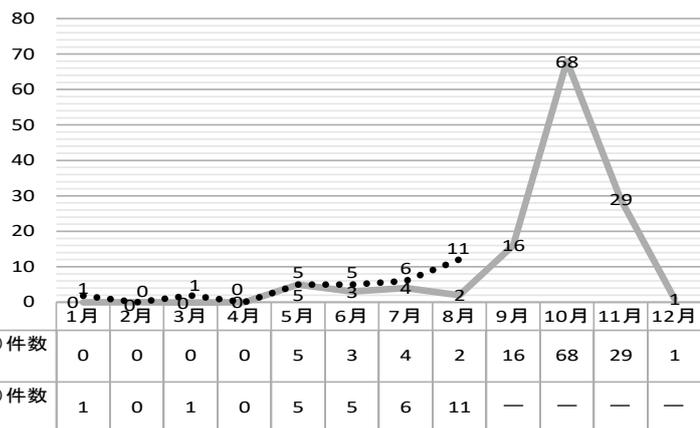
こうした状況がツキノワグマの警戒心をも低下させ、さらに、耕作放棄地の拡大によって、人とツキノワグマの予期せぬ「出会い」を多発させています。

クマの身体能力

ツキノワグマは、小さな音でも聞き分ける聴覚を持ち、わずかな臭いも嗅ぎ分ける嗅覚を持ちます。体長（鼻先からお尻まで）は最大で150cmで、体重は大きいもので120kgにもなります。人よりも速く走れるその速度は

時速40kmを超え、1000m世界記録保持者のウサイン・ボルトよりも速く走れます。水泳や木登りも得意なので、ツキノワグマに追いかけて逃げることが難しいでしょう。

市内クマの目撃 (出没) 情報





庭や農地の果樹を放任したままにしないでください。クマは鋭い嗅覚を持っているので誘引してしまいます。



ハイキングや農作業をする際は単独行動を避けましょう。早朝や夜間は出会う可能性が高く、山際の山林や川沿いは特に注意してください。

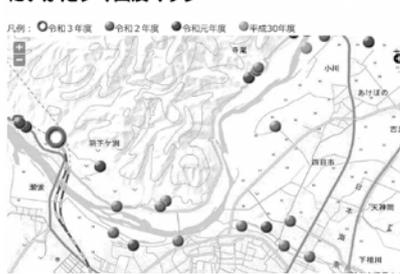


クマは耳も良いことから、農作業や山に入る際はクマ鈴やラジオなど、音の出るものを携帯し、人の存在を知らせましょう。



クマスプレーを携帯することも身を守る手段の一つです。

にいがたクマ出没マップ



クマが出没した場所をチェックしましょう。県の「にいがたクマ出没マップ」で確認できます。



クマとの出会いを避けるために必要なこと

里山から人の生活圏に進出

ツキノワグマは、学習能力が高く、人の生活圏で効率よく食べ物を確保できることを覚えると、執着します。収穫されない柿や栗などの果実や堅果類、農産物、家庭の生ごみの野外放置などは、人との棲み分けを失いつつあるツキノワグマをおびき寄せることになり、結果、私たちの生活圏にさらに近くまで行動範囲を広げ、人身被害などの思わぬ結果を招くこととなります。十分注意しましょう。

今年のブナなどの実は「不作」か

県の「令和3年度堅果類の豊凶状況調査（調査期間：7月1日～8月2日）」によると、下越のブナ・ミスナラ・栗・オニグルミの豊凶状況の予測は「不作～並作」であり、わずかに結実またはまばらに結実する状況となっており、今秋もツキノワグマが餌を求めて人里に出没する可能性が高くなっています。

もし出会ったら…

注意していてもツキノワグマに出会ってしまうことがあるかもしれません。そんな時は、まず落ち着きましよう。決して大きな声を出したり、背中

を見せて走ってはいけません。

距離が離れていた場合

ツキノワグマがこちらに気づいていない場合は、ゆっくりと静かに立ち去りましょう。

距離が比較的近い場合

ツキノワグマから目を離さず、落ち着いてゆっくりと背を向けずに静かに後退しましょう。できれば、万が一の突進に備えて、ツキノワグマとの間に障害物がくるようにしましょう。

距離がすぐ近くの場合

ツキノワグマがパニックになり突発的に攻撃してくることがあります。攻撃を受けたら両腕で顔や首、頭をガードしましょう。威嚇突進の場合は、途中で止まり後退することもありますが、なるべくツキノワグマとの間に障害物がくるようにし、ゆっくりと後退しましょう。

子グマを見かけた場合

子グマを見かけたら、近くに必ず母グマがいると思ってください。母グマは子グマを守るために特に攻撃的になります。「かわいらしい」といって近づいてはいけません。その場を離れましよう。